

大阪府内河川における全亜鉛、水温の測定結果について

1 公共用水域における全亜鉛濃度の測定結果

- ・府域の河川については、平成19年度に105河川、144地点(うち環境基準点94地点)で全亜鉛濃度の測定を実施している。(資料5-6(1))
- ・BOD等について類型指定がされている河川水域において環境基準値(0.03mg/L)と比較すると、80水域のうち、14水域が環境基準値を上回っている。(資料5-6(2))
- ・BOD等の類型別で見ると、環境基準値を上回っているのは、A類型：1水域、B類型：2水域、C類型：2水域、D類型：6水域、E類型：3水域となっている。

【全亜鉛の環境基準値超過状況】(平成19年度)

| 類型 | 環境基準値の超過割合(%) | | |
|----|---------------|---------------|------------------|
| A | 1 / 22 (4.5%) | 5 / 63 (7.9%) | 14 / 80 (18%) |
| B | 2 / 27 (3.7%) | | |
| C | 2 / 14 (13%) | | |
| D | 6 / 10 (60%) | 9 / 17 (53%) | |
| E | 3 / 7 (43%) | | |

2 公共用水域における河川水温の測定結果

- ・水生生物保全に係る環境基準の類型区分については、淡水域に生息する魚介類が冷水域と温水域では異なっていることから、水温を因子として大きく2つに区分(生物A、生物B)されている。
- ・府域の河川の水温の測定結果を資料5-7に示す。
- ・平成15~19年度の5年間水温の測定結果の概況は以下のとおりで、寝屋川水系及び大阪市内河川の最低水温、平均水温が他の水系に比べて高い傾向にある。

淀川水系 : 最低0.3、最高3.7、平均水温17.2
 神崎川水系 : 最低0.3、最高3.5、平均水温16.9
 寝屋川水系 : 最低3.4、最高3.5、平均水温19.8
 大阪市内河川 : 最低6.0、最高3.1、平均水温18.3
 大和川水系 : 最低1.2、最高3.4、平均水温17.2
 泉州諸河川 : 最低0.4、最高3.9、平均水温17.6